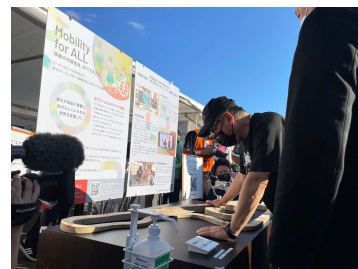
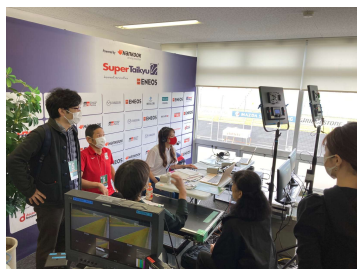


## トヨタ・モビリティ基金アイデアコンテスト OHK 日本初の「モータースポーツ手話実況」アカデミー創出へ 実証実験も実施

### 報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区下石井二丁目10-12、以下OHK）は昨夏、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金（東京都文京区、理事長：豊田章男）が企画した2022年アイデアコンテスト「Make a Move PROJECT」に応募し、昨年10月一次選考を通過した17チームとともにスーパー耐久レースin岡山で実証実験を行いました。OHKは約30年培ってきた手話放送のノウハウを生かし、誰もが当たり前前にスポーツ観戦を楽しめる環境の創出を目指して「情報から誰一人取り残されないモータースポーツ観戦を目指すプロジェクト」を実施、その成果と第二フェーズ「モータースポーツ手話実況者の育成」のアイデアについて、当事者の視点、持続可能性の観点から評価され、17チームのうちOHKを含む8チームが2022年度ファイナリストに選出されました。OHKは日本初となる手話実況アカデミーを立ち上げ、ろう者の手話実況者や実況をサポートする手話通訳者の育成を行い、今年度のモータースポーツの現場でさらなる実証実験を行う予定です。

昨年10月に実施した取組のうち特に反響が高かったのが、リアルタイム手話実況をつけた「ユニバーサル実況」です。これまで映像を眺めるだけだった聴覚障害者が、初めて実況解説という存在を知り、手話実況を通じてルールや選手の様子など多くの情報を受け取ることができました。健常者と同じタイミングで観戦を楽しむことができたこの取組に対し、実験に参加した障害者、審査員から大変高い評価をいただきました。（実況URL：<https://youtu.be/Elc0X2Lw5uM>）



手話は手の動きだけでなく、顔の表情、動作の速度や強弱によって情報を伝達する言語です。手話実況を担当した早瀬憲太郎氏がろう者であると同時にアスリートであることから、情熱的な手話実況が繰り広げられ、モータースポーツの躍動感、臨場感がより一層引き立ち、手話実況の新たな可能性を見出すことができました。OHKはこの活動をきっかけに、障害の有無にかかわらず誰もがスポーツ観戦にアクセスできる環境を創出し、「誰一人情報から取り残されない社会」の実現を目指してまいります。